



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290～4

FAX 06-6840-8127

平成15年(2003年)5月9日 第2号

## 「ひとりひとりが出会い、ふれあい、学び合う教育の広場」

豊中市立教育研究所から豊中市教育センターとなって、早くも1カ月が経ちました。引越しの準備から片付け、業務開始に合わせての準備等めまぐるしいスケジュールでしたが、ようやく教育センターの業務も本格的に始動することができるようになりました。これも皆さま方のご支援・ご協力の賜物と感謝しております。

業務開始に先立っての内覧会では、市民の方が多数見学に来られました。見学者の方から、今後の教職員の研修に対する期待の大きさをお聞かせいただき、教育センターの職員として改めて責任と使命の大きさを痛感しました。

学校の先生方への期待は、近年大きな波となって教育界に押し寄せています。例えば、文部科学省が本年3月31日に策定した「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」によると、英語教員の指導力向上及び指導体制の充実として、概ね全ての英語教員が、英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る授業を行うことのできる英語力(英検準一級、TOEFL 550点、TOEIC 730点程度以上)及び教授力を備えることが目標の第一に掲げられています。

このように数値まで含めて具体的な目標が示されているのは珍しいケースですが、保護者・市民の方から、すべての教育活動に対して指導方法の工夫改善・教員の指導力向上が年々強く求められるようになってきています。

教育センターでは、参加してよかったと思える魅力ある研修の実施はもちろんのこと、ひとりひとりが出会い、ふれあい、学び合うことで、子どもの学びへの意欲をいかに引き出していくかということと一緒に考えていける教育の広場にしていきたいと思っています。一人でも多くの方が教育センターをご活用くださることを願っています。

(奈良)

豊中市教育センター オープン記念 教育講演会 (4月25日)

講師 臨床心理士 西井恵子さん

子どもの心は育っていますか？

～心のサインを見逃さないための臨床心理士からのアドバイス～

教育センターの初めての講演会を行うにあたり、今、教育の課題となっている子どもの心の育ちをテーマとしました。市民、幼稚園・小・中学校の教職員、関係機関の方々等80名の参加のもと開催された講演会の内容の一部を紹介します。

愛されたい・大切な存在でありたいという子どもの心は、今も昔もかわっていない。ただ、子どもの中には、人と自分が比べられたときなどに、見捨てられたくないという気持ちから、こんなことをしても自分のことを愛しているのか？本当に自分のことを大切に思ってくれているのか？といったことを確かめようと行動してしまうことがある。子どもの心のサインを見逃さないために、大人は、毎日の生活の中で、

① 生活のリズムを一定にする

② 子どもの表情を見る

③ 子どもが自分から話ろうとすることを逃さない

ように心がけたい。

また、教えることは、子どもが知らなかったこと・わからなかったこと・気がつかなかったことであり、わかりきっていることを何度言っても子どもの心には響かない。むしろ子どもはやる気と、大人への信頼をなくしてしまうだけである。さらに、子どもが迷ったり、困ったりしているときには、自分で決めたという自己決定の実感を多くもたせていくことも大切である。

子育ての3つの「あ」

あせらない ーせかささない

あきらめない ー少々をつまずきや失敗であきらめず、長いスパンで物事を考える

あなどらない ー子どものもっている力を信じて、一人の人間として対応する

これらを心にとめ、力を抜き、かまえないで子どもと向き合っていきたいものである。



## コンピュータ活用入門⑬

### —「知っておきたいメールのネチケット」—

今回は、電子メールのまとめとして復習も兼ねて電子メール利用に係るネチケット（ネットワーク上のエチケット）について考えます。以下に気をつけたい点を挙げます。

#### 1. できるだけ早く返信する。

少なくとも「わかりました」等、読んだということだけでも知らせれば相手は安心です。

#### 2. チェーンメールは転送しない

危険なウイルスについての情報等、いかにも一見役立ちそうなメールに注意しましょう。

#### 3. テキストメールが基本

相手の受信環境に配慮し、「HTMLメール」を送る時は確認をしましょう。

#### 4. 受信メールは定期的にチェックする

あってもなくてもメールはチェックするもの。1日1回は確認をしましょう。

#### 5. はがきに書かないことはメールにも書かない。

秘密が完全に守られているわけではありません。見られて困る情報は書かないのが一番。

#### 6. トラブル処理にはメールは使わない。

直接のコミュニケーションが必要な場合、メールは逆効果になるときもあります。

#### 7. 送ってはいけない文字がある。

半角カタカナ、機種依存文字（例：Windowsの①、②、No等）は原則として送らない。

### 半角カタカナを送るのがいけない理由

インターネットでは、アスキーコードという7ビットで1文字を表現する文字コードを使っています。一方、日本のパソコンでは、漢字やひらがな・カタカナ等の日本語を扱うために、1文字を8ビット（正確には8ビット×2の16ビット）で表すシフトJISコードが使われています。そのため、このままでは、パソコンからインターネットの世界に文字を送ることはできません。

実は、日本にもJISコードという7ビット（正確には、7ビット×2）のコード体系があるので、インターネットの場合は、このコードを使うのですが、このコードには半角カタカナがありません。このため、ないものを無理に送ると、受け取った側では意味不明の文字になりいわゆる「文字化け」の状態になります。

もっとも、最近のメールサーバーでは8ビットの文字も扱えるものがあり、受信できるケースもあります。豊中で使っているアスキーのWebメールもその例です。

メールソフトは、このシフトJISコードとJISコードの変換を行うことで文字を表示していることになります。普段は意識する必要はありませんが、半角カタカナや機種依存文字を入力しそうなときは、この話を思い出してください。

## 通じあう会話

「窓開いてる？」このような問いかけをされたら、どのようなことばを返すでしょうか？「開いてるよ」「閉まっているよ」こんなことばを返すのではないかと思います。でも、ちょっと待って下さい。もし、汗ビッシヨリでこの問いかけをしているならば、「閉まっているよ」ではなく「窓開けようか？」といった、気の利いた返事をするのではないのでしょうか？このように自然な会話には、相手の表情・その場の状況・雰囲気などが加わり、文字通りの意味とは別の意味がうまれたりしているものです。

けれども、汗ビッシヨリで「窓開いてる？」と聞かれた時、意地悪をしているわけでもないのに、「閉まっているよ」と返事をする子どもがいます。この子どもは「窓開いてる？」ということばだけを文字通りに受け取り、そのことばに対する返事をしているだけなのです。

次のような子ども達に心当たりはないでしょうか？「遊びの時間は終わりだよ。おもちゃのお片付けできるかな？」といわれて「できるよ」とだけ答え、遊び続けてしまう子。電話で「お母さんいる？」と聞かれ、「いないよ」とだけ答えて受話器をおいてしまう子。「このおもちゃは目が飛び出るほど高い」と言われて、慌てて自分の目を押さえる子。やりとりができないわけではないのですが、「変わった子」という印象をもたれてしまうことがよくあります。

このような子ども達が会話の技術を獲得していくには、ちょっとした配慮が必要になります。

- ◆ 間接的な言い方を避け、直接的な言い方にする。

「これ合っているかな？」→「ここは答えが違うよ」

- ◆ 意味の曖昧なことばを使わない。

「またしようね」→「来週の水曜日の3時間目にしようね」

- ◆ 冗談や比喩を避ける。もし使用する場合はその意味を伝える。

こういったより適切なやりとりの中で、このような子ども達が会話の技術を学んでいけたらと思います。(藤田)

